

【OT138名が回答】東京都における作業療法士の業務の現状に関するアンケートについて
～新型コロナウイルス感染拡大の影響で作業療法士の業務はどう変化したのか～

一般社団法人 東京都作業療法士会
文責：事務局長 中里 武史

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響が日々深刻化しております。
緊急事態宣言が出される中、メディカルスタッフである作業療法士 138 名のご協力のもと、
「新型コロナウイルス感染症」に関するアンケートを実施いたしました。

アンケート期間：令和2年4月13日(月)～令和2年4月17日(金)

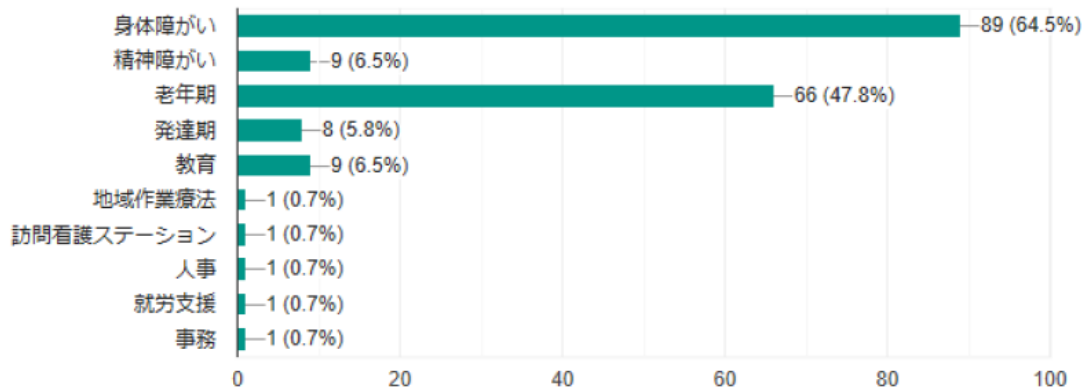
回答数：東京都作業療法士会会員 138 名

【目次】

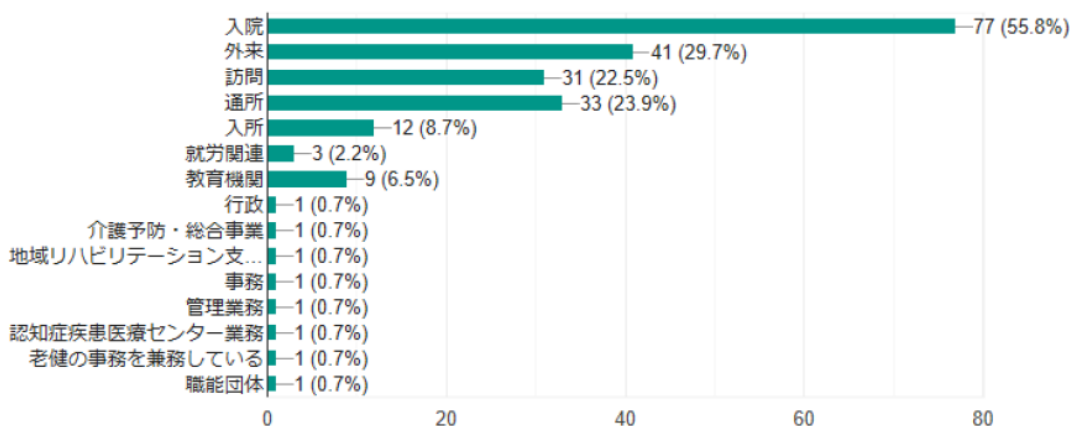
- 1、アンケート回答者属性
- 2、作業療法士の業務の変化
- 3、作業療法士の視点からみる対象者の今
- 4、作業療法士としての役割の模索
- 5、作業療法士からの要望

1、アンケート回答者属性 (複数回答可)

主な担当領域

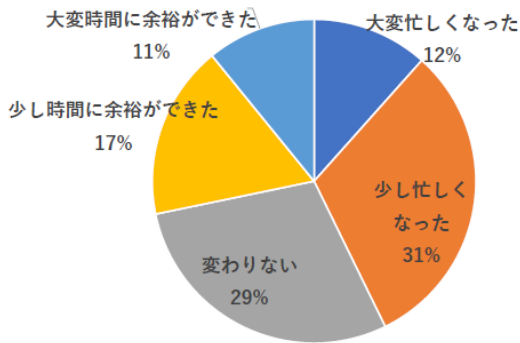


主な業務形態



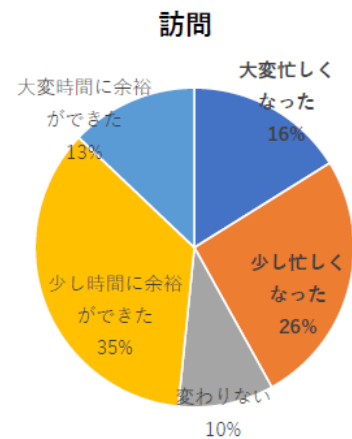
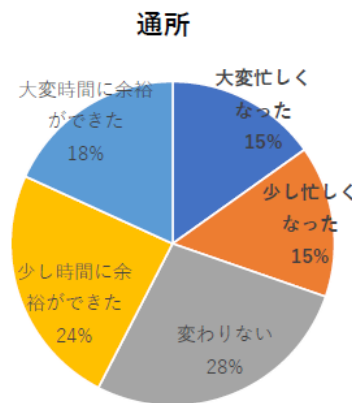
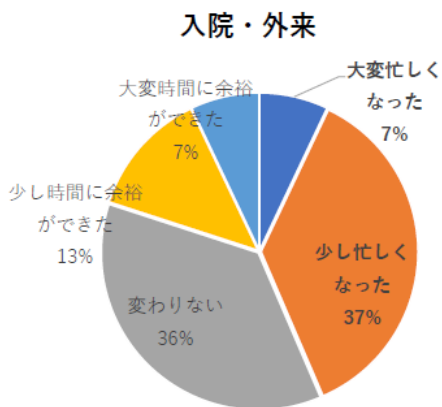
2、作業療法士の業務の変化

質問：新型コロナウイルスの発生により、ご自身の業務状況はどうなりましたか？



回答者全体では、
忙しくなったと回答した作業療法士は 43%
時間に余裕ができたと回答した作業療法士は 28%でした。

また、臨床別にも集計しました。



入院・外来に対応している作業療法士は **44%が忙しくなった**と回答しており、変わらないという回答も 36%でした。

忙しくなったという理由としては、

- ・退院の調整が難渋し延期になることや、入院期間が延びることでリハビリの依頼が増えた。
- ・対面での退院支援が行えず書類での申し送りの量が増えた。
- ・作業療法で使用する道具やベッドなど毎回消毒するようになった。

変わらないという理由としては、「入院者数は変わらず、リハビリ業務としては変わっていない。」、一方では「入院の受け入れを制限しているため患者数が減った」と、時間に余裕ができたと回答した方からの意見が聞かれました。

通所や訪問に対応している作業療法士は忙しくなったと回答する方が 30%、42%といる一方で、**時間に余裕ができた**と回答する方が通所では 42%、訪問では 48%でした。

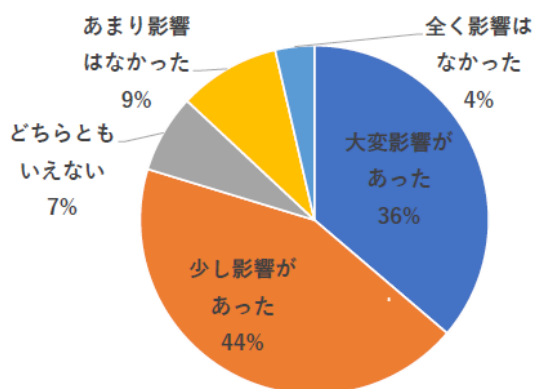
忙しくなった理由としては、

- ・感染対策の強化とプログラムを変更した。
- ・休まなければならないようになった職員のフォローをしている。

時間に余裕ができた主な理由としては、「キャンセルされる利用者様が増えた。」、「会議や外部とのやり取りが減った。」という内容が大半でした。

通所サービスをゴールデンウィーク明けまで閉所した、通所から訪問にリハビリを切り替える方が増えたといったご回答もありました。

質問：新型コロナウイルスの発生により、ご自身の業務内容には影響がでましたか？



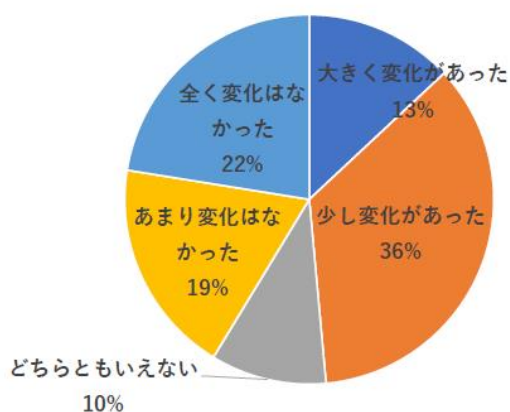
この度の新型コロナウイルス感染症において、**80%の作業療法士は影響があった**と回答しました。

主な理由としては、

- ・対象者の感染予防支援を強化した。
- ・屋外活動の評価や支援ができなくなった。
- ・リハビリテーション室の使用が制限された。
- ・業務を縮小した。
- ・在宅勤務を取り入れた。
- ・会議の方法を変えた

リハビリテーション業務においても WEBを用いた会議や、テレワークの導入を行う動きが見られています。日ごろ対面で行っていたご家族を含めた対象者への支援内容を書面や映像に変更するために模索している方も多いようでした。また、一方では、影響はなかったとして、要請に伴って通常業務を維持しているといった回答もありました。

質問：新型コロナウイルスの発生により、ご自身の業務時間に変化はありましたか？



およそ半数の作業療法士は業務時間に変化があったとの回答でした。

主な理由としては、

- ・出勤時間を変えた。
- ・人員不足のフォローをしている。
- ・休園、休校に伴い休みを取った。
- ・訪問業務以外は自宅待機になった。
- ・超過勤務をしなくなった。

リハビリテーション業務においても、出勤時間の調整や、家族や子供の状況に応じて休みを取るなどの影響がみられました。残業をしなくなったという回答がある一方で、残業が増えてしまったという回答も見られました。業務時間に変化はないとの回答では、対象者への支援を維持するため通常通り業務している方も多い様子です。

3、作業療法士の視点からみる対象者の今

質問：患者様やご利用者のおかれている状況も厳しくなっているものと思います。

この点について、ご意見があればお書きください

様々なご意見をいただきましたので、それぞれの抱える状況で整理しました。

【入院・入所において】

- ・ 面会制限により不安やストレスが募っている。ご家族にあえないまま逝去された方もいる。
- ・ 対象者の方が退院後に必要な在宅サービスが利用できるか皆が不安の中で退院の支援を行っている。
- ・ 退院先の地域やマンションに 感染者の情報があり退院できない状況がある。
- ・ リハビリ機器が 故障しても業者による修理ができず、本来の訓練が行えていない。

【通所・訪問において】

- ・ 利用者の危機意識もまちまちであり、自主的にサービスを自粛する方もいれば、人混みに外出してしまっている方もいる。同じ空間を共有する上ではリスクを高めてしまい、施設での管理も難しい。
- ・ 介護自粛により 生活不活発による廃用症候群が生じている。不安から精神面の不安定さが伺える方がいる。
- ・ 本人はリハビリを続けたくても、家族から自粛を勧められていることがある。
- ・ 家族の負担が増えている。現状の環境で BPSD が進行してしまっている人がいる。

【介護予防において】

- ・ 屋外で 役割を持って活動していた人の活動がなくなっている。閉じこもりによる健康維持が心配。

【作業療法学生に対して】

- ・ 養成校における学生の管理も難しく、外出しているものもある。親御さんのご理解も地域差がある。
- ・ 臨地実習に向けて学生には一般的な感染予防に関する留意事項を伝える程度しかできなかった。
学生の日常生活の行動制限は非常事態宣言が出るまで十分でなく、日頃から感染症に対する行動について教示していくべきだと思った。

支援者側の安全の担保からも支援内容が制限されていることも多いようです。

「感染拡大の予防とリハビリの必要性との天秤が難しい」といった意見もあり、現場でも現在の状況下で通常通りに業務を維持することにも判断が難渋し、苦悩されている作業療法士も多い様子です。作業療法士は環境の設定や気持ちの面のフォローも専門的に支援できる職種であり、「**作業療法実施中は安全で安心**できるよう支援を工夫している」という意見も複数聞かれました。

4、作業療法士としての役割の模索

質問：緊急事態宣言後に作業療法士としてやれそうなこと、現在の業務で実際に工夫していることがありましたらご記入ください。

【現在工夫していること】

- ・清潔を保ち、対面を避けるよう位置した訓練を行っている。
- ・入院中に家族に会えない方に絵手紙を取り入れたり、気晴らしとなる活動を提案している。
- ・できるだけ楽しみのある作業や活動に取り組むようにしている。
- ・安心してもらうためにあえて普段どおりの支援に心がけている。
- ・訪問できなくても、電話で状況を聴取し、不安を取り除けるよう支援している。
- ・自主トレーニングや活動メニューを作成し提供している。今回の機会に自助を促している。
- ・退院後の閉じこもりに備えた自宅活動を本人に決めてもらう支援をおこなった。
- ・緊急対応として買い物に行けない方へのインターネットでの購入方法を訓練に取り入れている。
- ・健康維持の啓発資料の配布や動画作成の検討をしている。
- ・自身の出勤に細心の注意を払い、必要以上の勤務を控える体制とした。
- ・リハビリテーション室のレイアウトを変えた。換気を徹底した。

【緊急事態宣言後に作業療法士としてやれそうなこと】

- ・作業療法学生の不安を取り除くよう支援する。
- ・介護や健康維持の予防プログラムの周知や整備が必要と感じている。
- ・今のうちから感染症の収束後に〇〇するという目標を共有している。
- ・地域を巡回して介護予防に働きかけることができるとよい。

まずは自身が感染の媒介にならないよう各自注意を払っており、感染対策への意識が高い内容の回答が多くみられました。**対象者だけでなく、そのご家族も含めて**作業療法士として今必要なこと、先を見据えて行えそうな支援を模索しながら現在の業務を行っていることがよく表れた内容であり、「今後も考えていきたい」といった意見も多く、さまざまな意見やアイデアが共有され、継続して検討する必要があることも見受けられました。

5、作業療法士からの要望

質問：その他のご意見がありましたらご記入ください。

その他に作業療法士より挙げた意見、要望をまとめました。

- ・実濃厚接触せざるえない身体に触れる訓練も多く、その際の注意点や指針など提示していただくと嬉しい

- ・ COVID-19 感染者の肺炎後の廃用症候群等へのリハビリガイドライン作成ができるとよい。
- ・ 国からは、屋外での散歩と買い物の外出は認められています。外出を控えるあまり、出来ていた生活行為が低下する恐れが高いと考えます。手指の消毒を周知徹底した上で、買物に出かけることは、栄養摂取の面からも重要な要素だと考えます。
- ・ 精神疾患や高次脳機能障害、認知症の方（特に行動障害が強いケース）やその家族への影響が大きいと思われ、その実態調査ができると良いと思います。
- ・ デイサービスがないと対象者やその家族の生活が成り立たない方が多いため、デイサービスは休業にしないでほしい。
- ・ 現場ではすでに看護・介護への協力を求められつつあります。協力を惜しむものではありませんが、自身の健康やどの職員が感染患者の対応にあたるのか不安もあります。対策にあたった職員に対する補償は望みます。
- ・ 医療従事者であっても、できる範囲で患者様との接触を減らしたり、制限する必要があると思います。国や協会からももう少し指示があると現場は動きやすいと思います。病院従事者で必要な業務だとしても、電車通勤や多くの人と接触することに不安はあります。無症状でもウイルスを保持していれば、患者様にうつしてしまうのではないか、家に帰れば家族に移してしまわないか等日々不安を感じています。

最後に、

作業療法士の実施するリハビリテーションの支援は、常に対象者やご家族に寄り添うことを信念とし、その人がその人らしく暮らせることを目指して取り組んできました。現在、寄り添うことすら難しい状況の中で、それぞれの作業療法士が工夫し、模索し、苦悩しながら業務を行っております。対象の方の健康を維持、向上するため、リスクや不安を抱えながらも立ち向かう作業療法士も増えています。すべての人々が社会の一員として、再びその人らしく生きがいをもって生活を営めるよう作業療法士全員が祈念しながら日々支援を継続しておりますこと、こうした報告を通じてでも知っていただく一助になりましたら幸いです。

※本アンケート結果につきまして、許可なく複製・転用・販売などの二次利用することを固く禁じます。

【問い合わせ先】

一般社団法人 東京都作業療法士会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-4-1 新宿 Q フラットビル 501

URL: <http://tokyo-ot.com/>

MAIL: jimu@tokyo-ot.com

